

社会福祉法人あおば福祉会  
おひさまっこ保育園  
2024年度（第7年度）事業計画

## はじめに

小規模保育園の特色である同年齢・異年齢保育での人と関わり合う力の育ちに確信を持ちながら、今年度も引き続き、保育の追求と発展を目指します。そして、3歳児からの連携園であるおひさま保育園への引き上げでの入園につなげていけるよう、おひさまっこ保育園での保育終了時には子ども達・保護者と成長を喜び合える機会をつくりたいと思います。能登半島地震という大きな災害が発生しましたが、日頃の訓練の重要性を改めて職員間で確認し、自園での毎月の避難訓練を丁寧に振り返り取り組んでいく一年にしていきたいと思います。地域貢献事業として、地域の方が集い、つながりと喜びを感じられる機会となるよう場所の提供や居場所づくりを継続し、また、災害時の避難場所としての役割が担えるよう環境整備を行っていきます。

## ◆大切にしたい保育内容・特色

- (1) 身体づくりに向け、園外に積極的に出かけ、子ども達一人ひとりが身体の主人公になる。
- (2) 小規模保育園としての特徴を生かし、小集団・異年齢保育に取り組み、人と関わり合う力を育む。
- (3) 地域の拠点として場所を提供し、様々な人とのつながりを通して豊かな感性を育む。

## 1. こどもの入園予定

おひさまっこ保育園 定員:12名

(理事会当日現在)

クラス(対数)	定員	4月予定児童数	内支援児	新入園児数	継続児童数
0歳児(3:1)	3	1	0	1	0
1歳児(5:1)	4	4	1	1	3
2歳児(6:1)	5	5	0	1	4
合計	12	10	1	3	7

※給食は、おひさま保育園から搬入

## 2. 職員体制と職員の状況(新規採用・異動職員)

異動 保育士 寺口 夏未 (おひさま保育園より)

正規職員・・・4名 総主任1名 保育士3名

パート職員・・・7名

常勤パート職員・・・2名 保育士1名・看護師1名

短時間パート職員・・・3名 保育士2名・子育て支援員1名

嘱託医・・・2名 なんばこどもクリニック (難波直樹小児科医師)  
カワムラ歯科診療所 (河村忠成歯科医師)

## 3. 子どもの安全と健康・危機管理

### (1) 危機管理に対する継続的な学習と実践をする

- ① 見直した緊急時引き渡しカードを活用し、参観日には大きな災害を想定して保護者への引き渡し訓練を行う。
- ② てんかんや痙攣について学習し、実践に活かせるようになる。
- ③ 策定した「安全計画」に基づき、非常対策訓練及び消火訓練を毎月実施し、職員間で振り返りを行う。また、保護者向けに貼りだしをし、共有する。
- ④ リスクマネジメント委員会が中心となり、「BCP(事業継続)計画」の策定に着手する。

## (2) 日常に起こる事故やけがの検証を行い、実践に活かす

- ① 看護師（病児保育事業 体調不良児型）と共に、子ども達のきめ細やかな健康管理に努める。また、子どもと共に「身体の日」の実践をする。
- ② 窒息・誤飲を防ぐための給食提供を検討し、救命救急研修を通して学習する。
- ③ AED を設置し、設置場所や使用方法を職員、地域の方と共有する。

## (3) 保育環境・労働環境を守る

- ① 「施設設備のチェックリスト」を活用し、職場の安全管理を行う。
- ② 看護師と共に、適切な感染予防対策を講じる。

## 4. 保護者の願いに応え、子どもと共に育ちあう関係を大切に

### (1) 保護者の要求や願いに応え、子どもと共に育ちあう喜びが共有できる

- ① 2歳児の保育終了時には、小規模保育園の終了と子ども達の成長を祝う機会をつくる。また、保護者とも喜び合える機会にする。
- ② 保護者のニーズに応え、衛生管理と健康把握の両立を踏まえた上で、自園での紙おむつ処理を導入する。
- ③ 園の行事や懇談会はおひさま保育園と合同で行い、保護者同士が繋がり合う機会をつくる。
- ④ 園内サークルや北支部ソフトボール大会を通して、保護者と職員が連携を図りながら文化的な活動を支援し、保護者が主体となって企画運営できるよう関わる。
- ⑤ 発達の気になる子や障がいのある子を持つ保護者と、心理に関わる方にも参画していただき、交流会を実施し、支援のあり方を共有する。
- ⑥ 四者協に参画し、保護者の願いを共有する。

## 5. 地域に根差し、地域に必要とされる保育園をめざして（地域貢献事業）

### (1) 地域に開かれた保育園をめざし、地域貢献事業に取り組む

- ① 住民主体ささえあい活動（通所型）「ぐんぐん元気塾」・高齢者うたごえサークル「ビビデバビデブー」・認知症の方と介護者が語り合える場「オレンジカフェ」・自治会の会議の開催場所、校区福祉会のお弁当配布のための場所の提供として、玄関入り口のスペースや3階を使用する。また、積極的に在園児とのふれあい、関わり合う機会を設ける。
- ② 地域の子育て世帯に向けて豊中市子育て・子育て応援アプリ『とよふぁみ by 母子モ』を活用し、園で行う地域活動を発信し周知を図り、参加者の拡大を目指す（特に0歳児を対象とした子育て支援を行う）。
- ③ スマイルサポーターを中心に地域活動『あそぼう会』を計画し、地域での子育てする親のニーズ把握や育児相談を行う。

### (2) 地域の教育機関・施設との連携する

- ① 地域ネットワーク会議に参加し、地域ニーズの把握や他機関との連携を図る。

### (3) 地域にとって大切な社会資源としての保育園をめざす

- ① 「熊野田校区福祉連絡会」「夕日丘自治会（さつき会・子ども会）」等に参画し、地域の福祉向上のための役割を果たしていく（介護予防体操・オレンジカフェ・自治会等）。
- ② 災害時の地域の方の避難場所として使用できるよう、自治会の方と備蓄を整備する。
- ③ 子どもの居場所づくり「おひさまの家」事業を行い、学童保育後の生活保障のために支援を要する連携園のおひさま保育園の卒園児を受け入れ、園の3階を在園児との交流の場として位置付ける。

## 6. 職員の資質向上をめざして

### (1) 「実践」と「学習」が結びついた研修を行う

- ① 青井郁美さん（神戸大学大学院）の「0歳児クラス的环境と乳児の手の動き」研究から、乳児保育の学びを追求する。
- ② おひさま保育園と共に乳児会議はクラス責を中心に運営し、子どもの姿から学習と実践を積み重ねていく。
- ③ 総括会議に研究者にも参加していただき、会議内容を充実させていく。

## (2) 他園との交流を通して学び合う

- ① 対象者や目的を明確にした豊中地域と北支部五園の交換研修を実施し、お互いに保育の質を高め合う。また、おひさま保育園と交換研修を行いながら、乳児の保育を追求する。
- ② 豊中地域で連携し、お互いの実践交流を図りながら、保育計画の立案や子ども理解につなげる。
- ③ 豊中地域でデジタル委員会を発足させ、保育業務のクラウド管理化や情報共有のシステム化、業務の省力化の実現に向けた取り組みを行う。

## (3) 講師を招いて研修会を実施する

- ① 「保育実践から子どもの内面と発達理解を」 講師：長瀬美子 氏（大阪大谷大学） 年3回
- ② 「食と姿勢 ～子どもたちの口腔内から体の育ちを考える」 講師：河村忠成 氏 春頃
- ③ 「発達障がいの理解」 講師：松岡太郎 氏（前豊中市保健所長） 年3回
- ④ 「0歳児保育」「身振り表現」 講師：青井郁美 氏（神戸大学：人間発達環境学研究科） 年6回

## 7. 中長期計画に関わって

### (1) 人について

- ① おひさまっこ保育園・おひさま保育園の組織明確化と連携に向けて、毎週初めに管理職同士のミニ会議を位置づけ、情報や課題の交流や業務確認を行う。
- ② 処遇改善加算Ⅱ対象の職員は、計画的にキャリアアップ研修4分野の取得を目指す。

### (2) 事業について

- ① スマイルサポーターを中心に、地域の子育て世帯を対象とした地域活動計画を充実させ（特に0歳児を対象とした子育て支援）、地域との関係づくりをおひさま保育園と連携する。
- ② 保育園の3階を災害時の地域の方の避難場所として使用できるよう、備蓄を整備する。